

新たな計画における 地域幸福度指標の活用について

令和6（2024）年11月12日（火）

公益財団法人 日本生産性本部

アジェンダ

1. 地域幸福度（Well-Being）指標の概要
2. 地域幸福度（Well-Being）指標の構成
3. 「重点パッケージ」における指標の活用方法
4. 指標の進行管理について

1. **地域幸福度（Well-Being）指標の概要**
2. 地域幸福度（Well-Being）指標の構成
3. 「重点パッケージ」における指標の活用方法
4. 指標の進行管理について

（１）地域幸福度（Well-Being）指標の概要

- 地域幸福度(Well-Being)指標とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです。
- 地域幸福度(Well-Being)指標では、世界的に認知された「**ウェルビーイング（Well-being）**」と「**健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health）**」の2つを基本概念としています。

ウェルビーイング（Well-being）

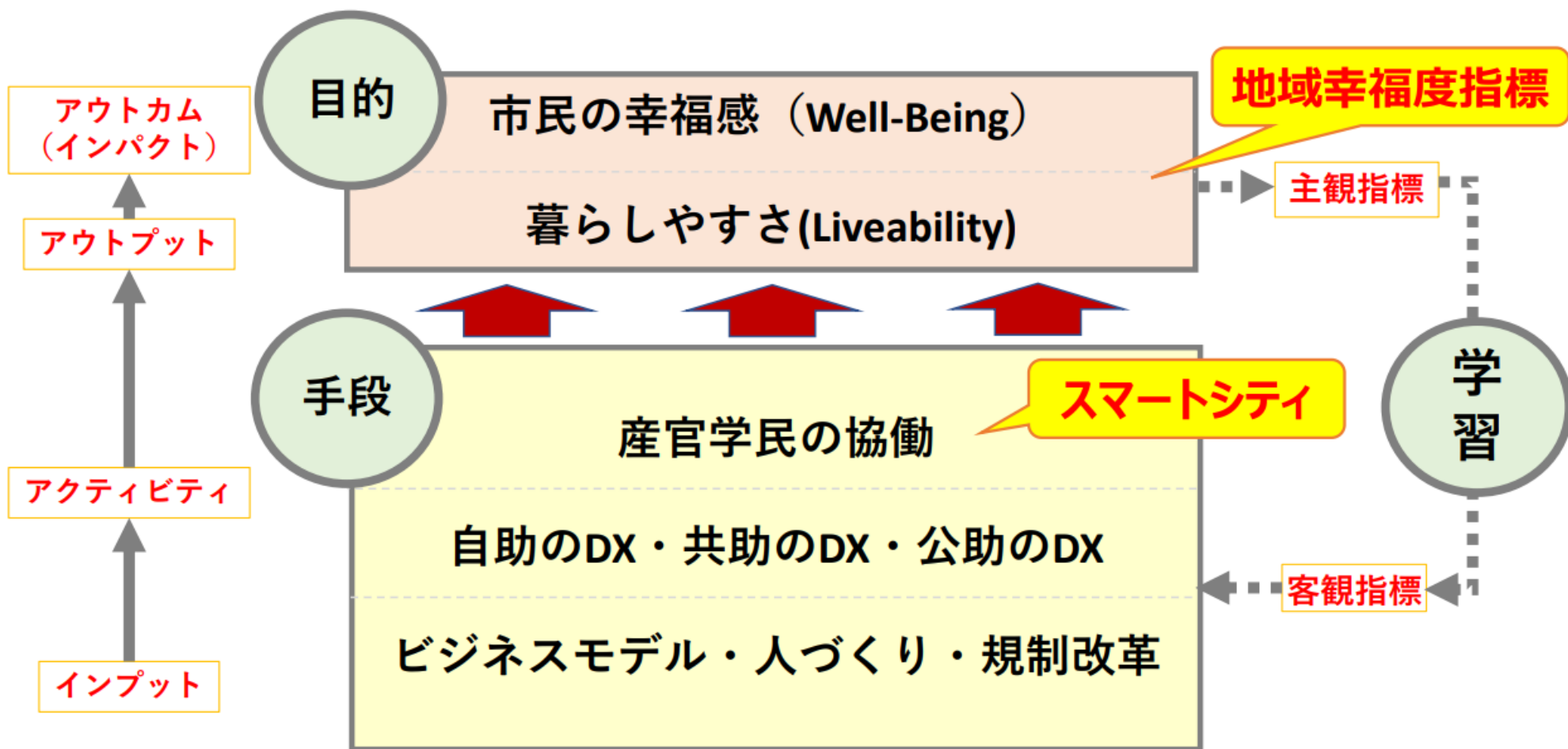
- ・ =「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」
- ・ 「健康とは、病気ではないとか、弱っていないというわけではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべて満たされた状態（Well-being）にあること」（WHO）

健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health）

- ・ =「個人または集団の健康状態に違いをもたらす経済的、社会的状況のこと」
- ・ WHOソリッドファクト（2003年）に列挙された健康の社会的決定要因：社会格差、ストレス、幼児期、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通
- ・ 社会的決定要因とは、人間の健康には人間内面（身体・精神・社会）のみならず、外部環境も影響を与えているとする
- ・ デジタル庁は、[「デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度（Well-Being）指標の活用促進に関する検討会」](#)の開催等を通じ、地方公共団体における地域幸福度（Well-Being）指標の活用を推進している。
- ・ なお、地域幸福度（Well-Being）指標は、[一般社団法人スマートシティ・インスティテュート\(Smart City Institute Japan : SCI-Japan\)](#)によって独自に作成・開発された手法によって算出される著作物であり、SCI-Japanは、地域幸福度（Well-Being）指標及び本サイトに掲載の関連著作物（以下、地域幸福度（Well-Being）指標等）、並びに地域幸福度（Well-Being）指標を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有している。

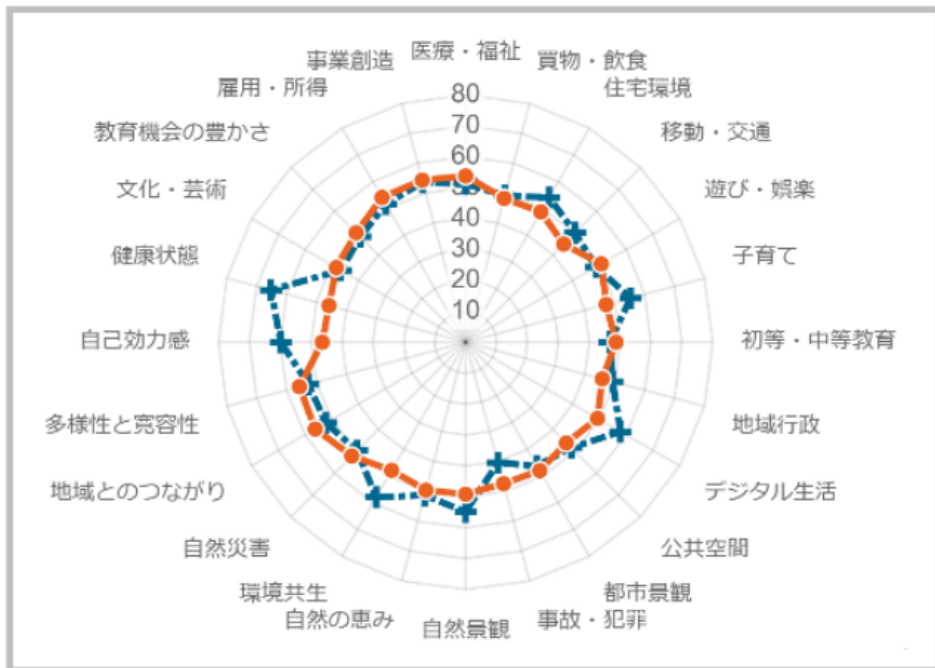
(2) 地域幸福度(Well-Being)指標を活用したロジックモデル

- 地域幸福度指標を用いる事で、各地域において取り組まれる施策を「手段」として、そのアウトプットとそこから導かれるアウトカム（インパクト）を測定することが可能になります。



(3) 地域幸福度(Well-Being)指標の因子群とカテゴリー

- 地域幸福度指標は、地域における幸福度・生活満足度を計る4つの設問と、3つの因子群(“生活環境”、“地域の人間関係”、“自分らしい生き方”)から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。
- 24のカテゴリー毎に、主観指標はアンケート設問、客観指標はKPIが設定されています。



橙色の線 = 主観評価、青色の線 = 客観評価

- ・ 地域幸福度(Well-Being)指標では、偏差値化した主観指標・客観指標を使用。
- ・ 偏差値化の狙いは、まちの特徴をグラフの凹凸の形で読み取れるようにすること。

カテゴリー名称		
生活環境(16)		地域の人間関係(2)
医療・福祉	公共空間	地域とのつながり
買物・飲食	都市景観	多様性と寛容性
住宅環境	自然景観	自分らしい生き方(6)
移動・交通	自然の恵み	自己効力感
遊び・娯楽	環境共生	健康状態
子育て	自然災害	文化・芸術
初等・中等教育	自己・犯罪	教育機会の豊かさ
地域行政		雇用・所得
デジタル生活		事業創造

■ 偏差値計算式

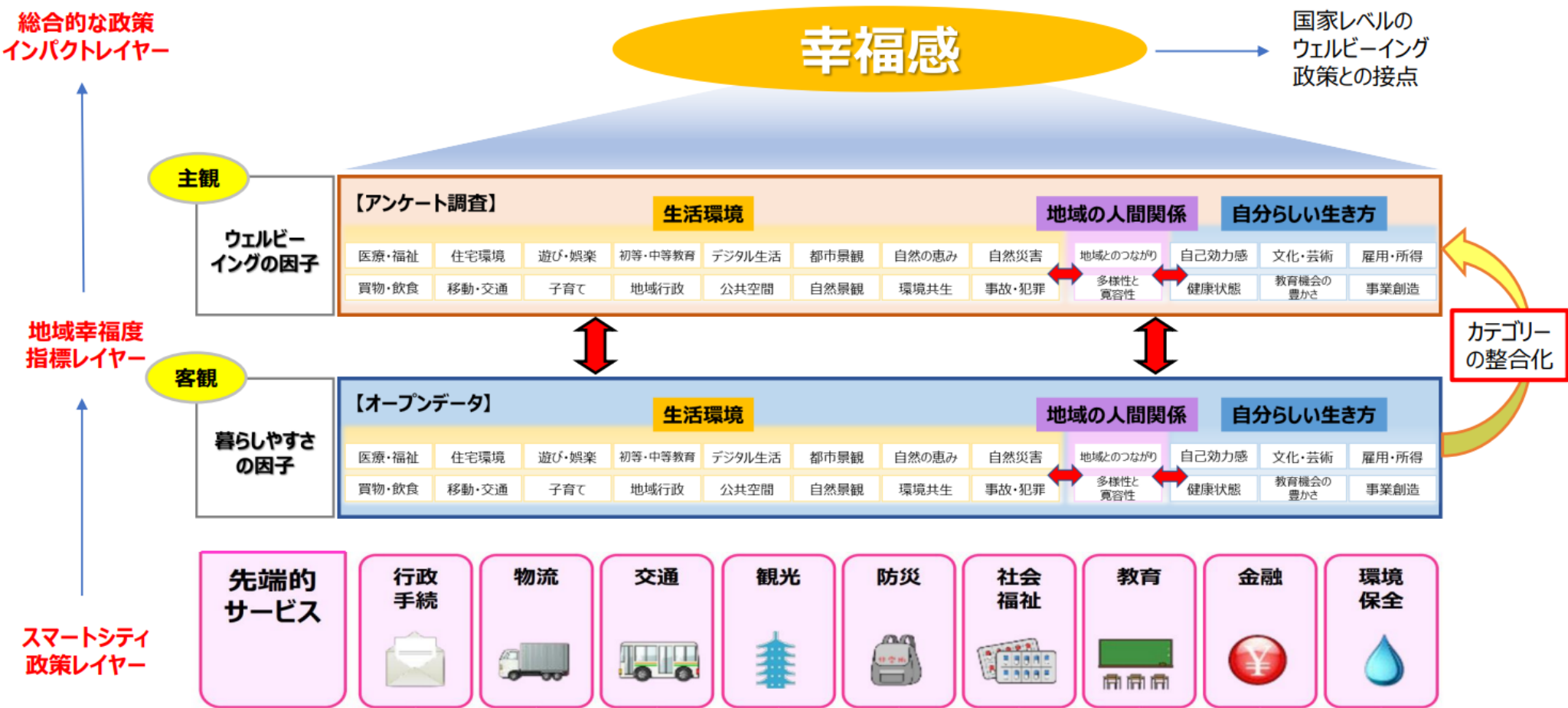
$$(\text{偏差値}) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

(↑数値が高いほど悪い状態を表すKPIについてはマイナスを使用)

1. 地域幸福度（Well-Being）指標の概要
2. 地域幸福度（Well-Being）指標の構成
3. 「重点パッケージ」における指標の活用方法
4. 指標の進行管理について

(1) 地域幸福度(Well-Being)指標の全体構成図

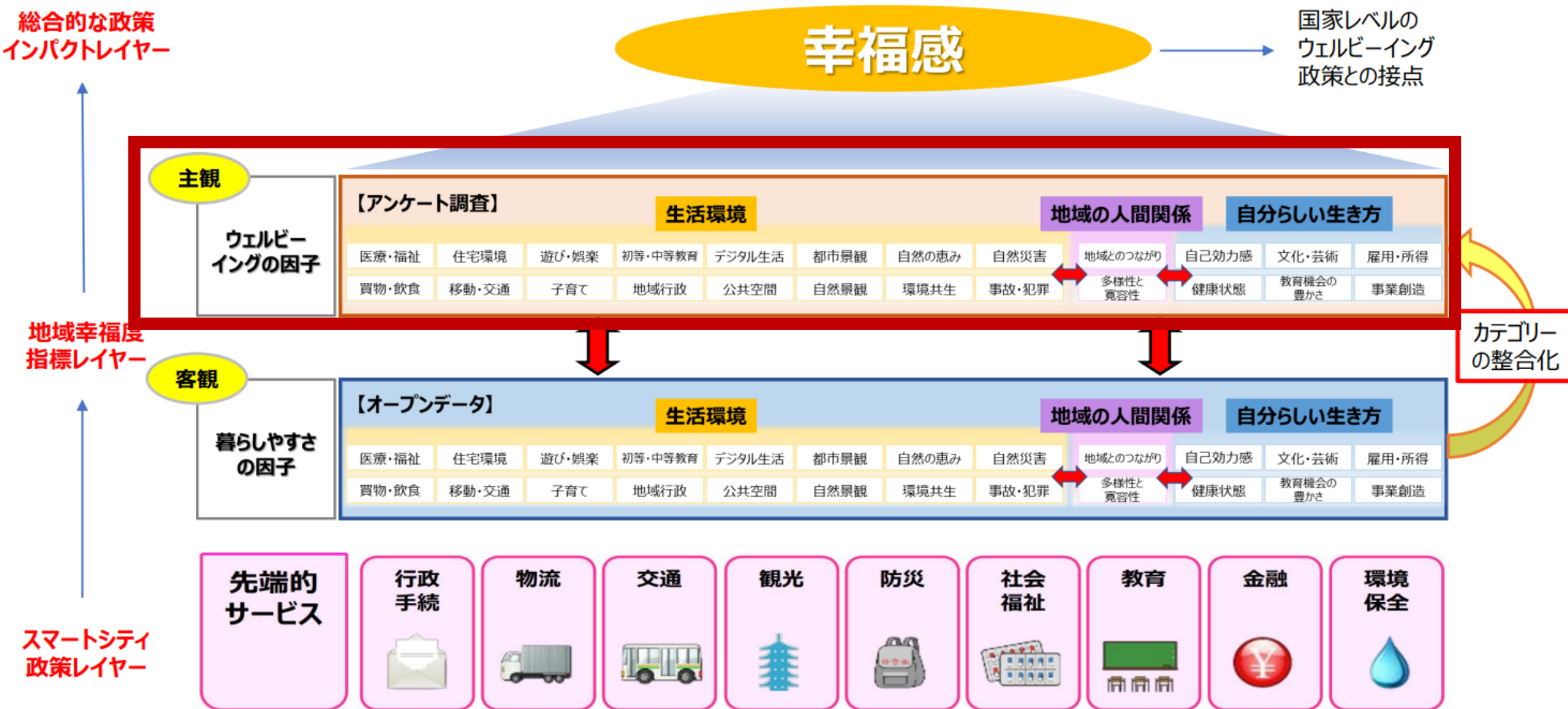
- 地域幸福度指標は、各地域における政策と、その政策インパクトとして現れる市民の幸福感とを結びます。
- 主観指標と客観指標を同じ因子構成とすることで主観と客観の紐づけを簡素化し、**因子間の関連から各自治体が注目すべき因子の抽出が可能**です。



【出典】『地域幸福度(Well-Being)指標利活用ガイドブック』（2024年6月版）より

(2) 主観（ウェルビーイング）指標の内容

- 主観指標では、アンケート調査から市民の「ウェルビーイング」を測定します。
- 自治体の関心の高い領域や注力する分野について、地域幸福度(Well-Being)指標の50問ではカバーされていない場合は、独自に追加設問を設定したアンケートの実施が推奨されています。



(2) ①主観（ウェルビーイング）評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度（4）

- 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？

- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

生活環境（16）

医療・福祉（2）

- 医療機関が充実している（利便性）
- 介護・福祉施設のサービスが受けやすい

買物・飲食（2）

- 日常の買い物に全く不便がない（利便性）
- 飲食を楽しめる場所が充実している

住宅環境（3）

- 自宅には、心地よい居場所がある（居住空間）
- 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている（秩序）
- 適度な費用で住居を確保できる

移動・交通（1）

- 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる

遊び・娯楽（1）

- 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

子育て（2）

- 子育て支援・補助が手厚い
- 子どもたちがいきいきと暮らせる

初等・中等教育（2）

- 教育環境（小中高校）が整っている
- 通学しやすい場所に学校がある

地域行政（2）

- 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている（地域行政）（社会関係資本）
- 公共施設は使い勝手良く便利である（利便性）

デジタル生活（2）

- 行政サービスのデジタル化が進んでいる
- 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

公共空間（2）

- 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい（相性）
- まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

都市景観（1）

- 自慢できる都市景観がある

自然景観（1）

- 自慢できる自然景観がある

自然の恵み（2）

- 身近に自然を感じることができる（自然）
- 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（自然）

環境共生（1）

- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

自然災害（1）

- 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

事故・犯罪（2）

- 防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- 歩道や信号が整備されていて安心である

地域の人間関係（2）

地域とのつながり（5）

- 私は同じ町内に住む人々を信頼している（社会関係資本）
- 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである（社会関係資本）
- 困ったときに相談できる人が身近にいる（つながり・感謝）（社会関係資本）
- 町内の人が困っていたら手助けする（向社会的行動）
- このまちに愛着を持っている（一体感）

多様性と寛容性（5）

- 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある（異質性・多様性）
- 私は見知らぬ他者であっても信頼する（異質性・多様性）（過干渉・不寛容）
- 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる（一体感）（過干渉・不寛容）
- 女性が活躍しやすい
- 若者が活躍しやすい

自分らしい生き方（6）

自己効力感（1）

- 自分のことを好ましく感じる（一体感）

健康状態（2）

- 身体的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）
- 精神的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）

文化・芸術（2）

- 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい（ダイナミズム・誇り）
- 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（多世代共創）

教育機会の豊かさ（1）

- 学びたいことを学べる機会がある

雇用・所得（2）

- やりたい仕事を見つけやすい
- 適切な収入を得るための機会がある

事業創造（1）

- 新たなことに挑戦・成長するための機会がある（ダイナミズム・誇り）（モチベーション）

(2) ②「地域生活における幸福度と生活満足度」の設問一覧（1因子、4問+1問）

- 各設問の回答形式は、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いずれかの数字を1つ選んでいただく11件法です。町内（集落）の人々の幸福について、全く分からない場合には、「分からない」を選んで頂きます。

幸福度・満足度	現在、あなたはどの程度幸せですか？
	現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
	※ 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。

※ オプショナル設問：本設問の利用可否は、自治体にてご判断頂きます

- 以下の設問の回答形式は、「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点として、いずれかの数字を1つ選んでいただく11件法です。

幸福度・満足度	現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
---------	----------------------------------

- 以下の設問の回答形式は、「非常にあてはまる」=5、「ある程度あてはまる」=4、「どちらとも言えない」=3、「あまりあてはまらない」=2、「全くあてはまらない」=1、の5件法です。

幸福度・満足度	自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う
---------	------------------------------

(2) ③「生活環境」の設問一覧（16因子、27問）

- 各設問の回答形式は、「非常にあてはまる」=5、「ある程度あてはまる」=4、「どちらとも言えない」=3、「あまりあてはまらない」=2、「全くあてはまらない」=1、の5件法です。

医療・福祉	暮らしている地域は、医療機関が充実している 私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	デジタル生活	私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる 私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
買物・飲食	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない 私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	公共空間	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい 私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある
住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている 私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる	都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある
移動・交通	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
遊び・娯楽	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	自然の恵み	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
子育て	私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い 私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる	環境共生	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである
初等・中等教育	私の暮らしている地域では、教育環境（小中高校）が整っている 私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある	自然災害	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている
地域行政	暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	事故・犯罪	私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい 私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である

【逆】：回答の点数が逆転します。「非常にあてはまる」=1、「ある程度あてはまる」=2、「どちらとも言えない」=3、「あまりあてはまらない」=4、「全くあてはまらない」=5

(2) ④「地域の人間関係」の設問一覧（2因子、10問）

- 各設問の回答形式は、「非常にあてはまる」=5、「ある程度あてはまる」=4、「どちらとも言えない」=3、「あまりあてはまらない」=2、「全くあてはまらない」=1、の5件法です。
- 回答する地域（範囲）を定めるため、「あなたが暮らしている地域（〇〇〇）についてお答えください」などと表記します。

地域とのつながり	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している
	私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる
	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする
	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている
多様性と寛容性	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
	私は、見知らぬ他者であっても信頼する
	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
	私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある
	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある

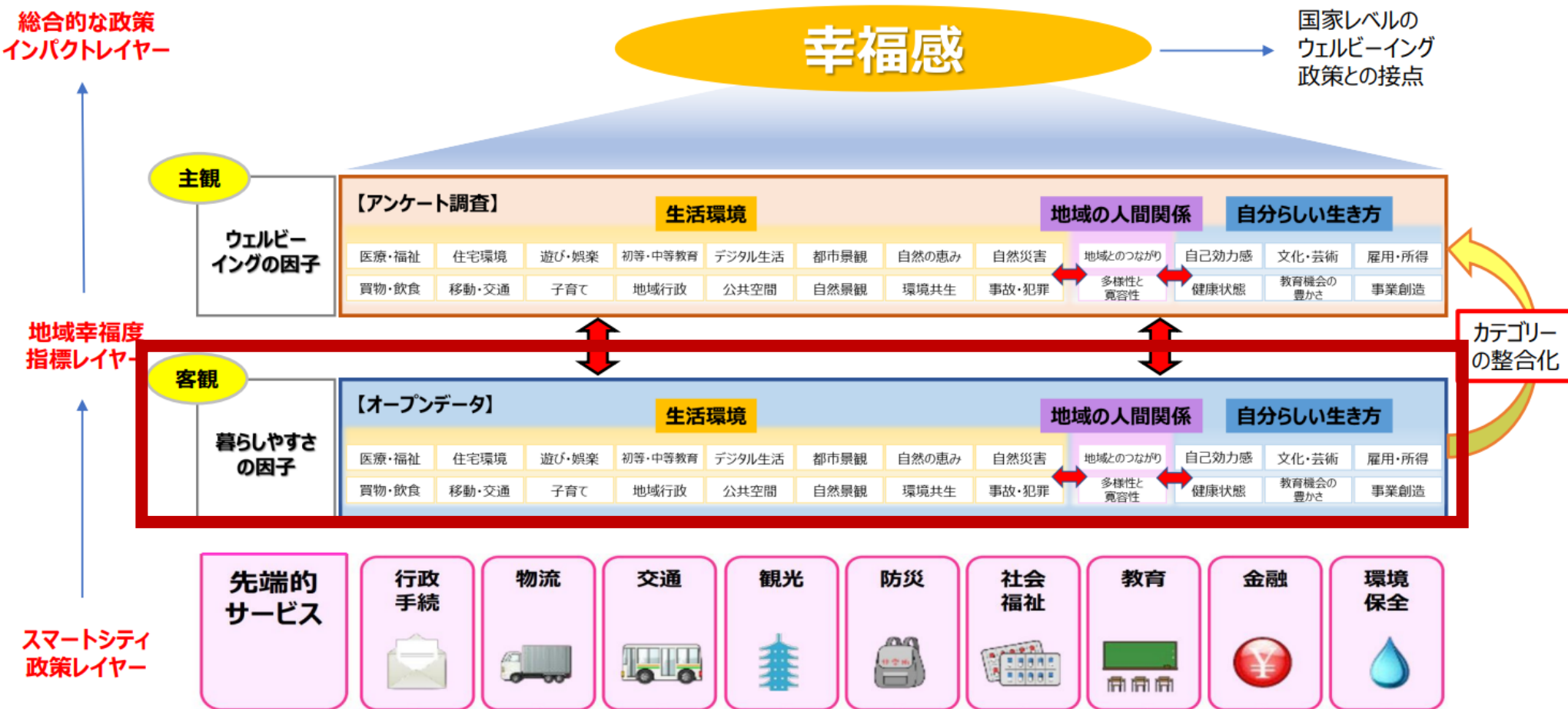
(2) ⑤「自分らしい生き方」の設問一覧（6因子、9問）

- 各設問の回答形式は、「非常にあてはまる」=5、「ある程度あてはまる」=4、「どちらとも言えない」=3、「あまりあてはまらない」=2、「全くあてはまらない」=1、の5件法です。
- 回答する地域（範囲）を定めるため、「あなたが暮らしている地域（〇〇〇）についてお答えください」などと表記します。

自己効力感	自分のことを好ましく感じる
健康状態	私は、精神的に健康な状態である
	私は、身体的に健康な状態である
文化・芸術	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
教育機会の豊かさ	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
雇用・所得	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい
	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
事業創造	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある

(3) 暮らしやすさ客観指標の内容

- 客観指標ではオープンデータから「暮らしやすさ」を測定します。



(3) ①暮らしやすさ客観指標のカatalog

■ 暮らしやすさの客観指標のうち、「指数」については、構成する項目（施策・施設など）が「有り」の場合に1点、「無し」は0点とし、全項目の合計を算出しています。

生活環境（16）

医療・福祉

- 医療施設徒歩圏人口カバー率
- 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり国保医療費 (-)
- 人口あたり後期高齢者医療費 (-)
- 特定健康診断受診率
- 福祉施設徒歩圏人口カバー率
- 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり児童福祉施設数
- 人口あたり障害者施設施設数
- 人口あたり認知症サポーター・サポーター数

買物・飲食

- 商業施設徒歩圏人口カバー率
- 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 可住地面積あたりの飲食店数
- 人口あたり飲食店数

住宅環境

- 住宅あたり延べ面積
- 平均価格（住宅地） (-)
- 専用住宅1m2あたり家賃 (-)
- 一戸建の持ち家の割合

移動・交通

- 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率
- 駅およびバス停徒歩圏人口密度 (-)
- 人口あたり小型車走行キロ (-)
- 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合
- 職場までの平均通勤時間 (-)

遊び・娯楽

- 人口あたり娯楽業（映画館、劇場、スポーツ施設等）の事業所数

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅割合
- 可住地面積あたり幼稚園数
- 施設あたり幼稚園児数 (-)
- 人口あたり待機児童数 (-)
- 歳出総額における教育費の構成比
- 合計特殊出生率

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数
- 可住地面積あたり中学校数
- 可住地面積あたり高等学校数
- 施設あたり小学生数 (-)
- 施設あたり中学生数 (-)
- 施設あたり高校生数 (-)

地域行政

- 人口あたり体育施設利用者数
- 人口あたり図書館帯出者数
- 人口あたり博物館入館者数
- 地域財政指数

デジタル生活

- 自治体DX指数
- デジタル政策指数
- デジタル生活指数

公共空間

- 公園緑地徒歩圏人口カバー率
- 人口あたり公園の面積
- 歩道設置率
- ウォーカブル指数

都市景観

- 都市景観指数

自然景観

- 自然景観指数

自然の恵み

- 食料生産ポテンシャル
- 水供給ポテンシャル
- 木材供給ポテンシャル
- 炭素吸収量
- 蒸発散量
- 地下水涵養量
- 土壌流出防止量
- 窒素除去量
- リン酸除去量
- NO2吸収量
- SO2吸収量
- 洪水調整量
- 表層崩壊からの安全率
- 緑地へのアクセス度
- 水域へのアクセス度
- オートキャンプ場への立地

環境共生

- NOx平均値 (-)
- PM2.5年平均値 (-)
- ゴミのリサイクル率
- 人口あたり年間CO2排出量 (-)
- 人口あたり再エネ発電量
- 環境政策指数

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 高潮危険度
- 土砂災害危険度
- 地震動危険度
- 津波危険度
- ハード対策
- 避難・救助
- 要配慮者支援
- 防災教育
- 防災まちづくり
- 情報・デジタル防災

事故・犯罪

- 人口あたり交通事故件数* (-)
- 人口あたり刑法犯認知件数* (-)
- 空家率 (-)

指数を構成するKPIはP14~15を参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

(3) ②暮らしやすさ客観指標のカatalog

- 暮らしやすさの客観指標のうち、「指数」については、構成する項目（施策・施設など）が「有り」の場合に1点、「無し」は0点とし、全項目の合計を算出しています。

地域の人間関係（2）

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自分らしい生き方（6）

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命（平均自立期間）（男性）
- 健康寿命（平均自立期間）（女性）

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財（建造物）の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数

1. 地域幸福度（Well-Being）指標の概要
2. 地域幸福度（Well-Being）指標の構成
3. 「重点パッケージ」における指標の活用方法
4. 指標の進行管理について

（１）EBPM：Evidence Based Policy Making の潮流

- 近年、地方自治体においても「EBPM」の発想を取り入れた行政経営が期待されています。
- その背景には、「VUCA」時代とも表現される先行きや将来の見通しの不透明さ・不確実性が高い今日において、より機動的で柔軟な政策形成（アジャイル型の政策形成）が必要とされていることがあります。
- このような発想に基づく行政経営を行うために、あらかじめ政策効果の検証の設計を行うことが必要となります。

EBPMをめぐる国・地方自治体の政策的動向

- ・ 政府は2017年8月にEBPM推進委員会を設置し、関係府省の連携のもと、EBPMを推進。
- ・ 一例として、経済財政運営と改革の基本方針（いわゆる「骨太の方針」）では、2017年以来今日に至るまで毎年EBPMに言及。2024年度の予算編成では、約5,000本の全予算事業の予算案の編成過程にEBPMの手法が活用された。
- ・ 地方自治体でもEBPMの推進が課題となる一方、民間調査によれば「EBPMを推進している」と回答した自治体の割合は20%に満たないなど、その具体的な導入は模索が続く。
- ・ 最近の動向として、2022年5月に政策評価審議会において「デジタル時代にふさわしい政策形成・評価の在り方に関する提言」がなされている。同年12月に取りまとめられた答申では、**政策評価の機能を「政策の進捗状況（現在地）を正しく知り、その「現在地」から政策の「目的地」に向けたナビゲーションを行うもの」と定義した（*1）。**

アジャイル型の政策形成と評価

- ・ 従来の静的（スタティック）な政策形成・評価に対し、先行きが見通しづらい今日においては、より**機動的で柔軟**とされる「アジャイル型」の政策形成・評価が求められる（*2）。
- ・ そのためには、**企画立案時に予定進路を明確に定め、実施後のズレを認識できるようにして効果を検証し、状況変化に応じて思い切った政策の見直し・改善につなげていく**ことが必要。
- ・ アジャイル型EBPMを実現する上で、政策目的とロジックの明確化（ロジックモデル）と並行して、**データ等のエビデンスの収集、効果検証の設計（リサーチデザイン）を行うことが重要。**

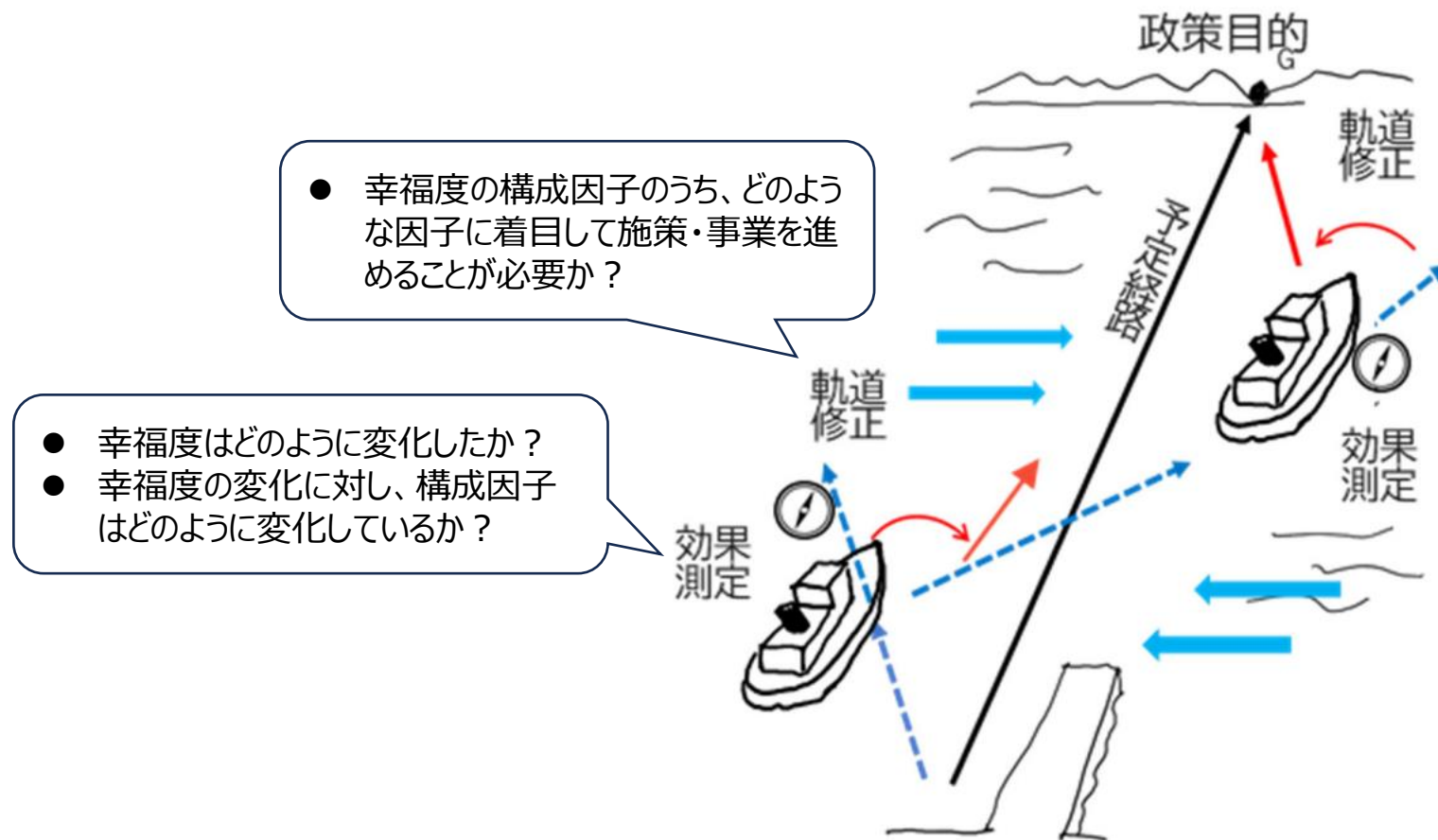
（出典）

*1 政策評価審議会「デジタル時代にふさわしい政策形成・評価の在り方に関する提言」（2022年5月）https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/hyouka_220531000157635.html より

*2 内閣官房行政改革推進本部事務局「アジャイル型政策形成・評価の在り方に関するワーキンググループ 提言」（2022年5月）https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gskaigi/pdf/agile_teigen_setumei.pdf より

（２）地域幸福度指標を活用した「アジャイル型」の政策形成・評価のイメージ

- ビジョンを明確に定め、達成のための方法（施策）を明示します。
- できるだけ多くの頻度、短い間隔で位置測定と航路修正を行います（＝毎年度の個別調査の実施）。
- 具体的な航路修正の方法（方向、速度、舵操作）を用います（＝事業の実施）。



(3) 重点政策パッケージにおける幸福度指標の活用について

- 各ビジョンを達成するために協働で目指す施策横断的な取組として、該当する施策・事業群の取組の方向性を列挙する形で「重点政策パッケージ」を置くことを想定しています。
- 各重点政策パッケージには、その内容に応じて、幸福度の構成因子の中からベンチマークする（経年での変化を確認する）指標をふりわけています。

重点政策パッケージにおける幸福度カテゴリーのイメージ

テーマ	「人口減少対策」	
ビジョン	こども・わかものの活躍を応援する，若々しく住み心地・暮らし心地のよいまちの実現	
ベンチマークする幸福度カテゴリー	子育て （基準値：R6年度偏差値） ・主観：XX.X ・客観：XX.X	多様性と寛容性 （基準値：令和6年度偏差値） ・主観：XX.X ・客観：XX.X
主観データ（指標）	・子育て支援・補助が手厚い ・子どもたちがいきいきと暮らせる	・町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある ・私は見知らぬ他者であっても信頼する私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる ・女性が活躍しやすい ・若者が活躍しやすい
客観データ（指標）	・保育所まで1km未満の住宅割合 ・可住地面積あたり幼稚園数 ・施設あたり幼稚園児数（-） ・人口あたり待機児童数（-） ・歳出総額における教育費の構成比 ・合計特殊出生率	・議会における女性議員の割合 ・自治体の管理職職員における女性の割合 ・自治体職員における障害者の割合 ・人口あたり外国人人口 ・多様性政策指数

1. 地域幸福度（Well-Being）指標の概要
2. 地域幸福度（Well-Being）指標の構成
3. 「重点パッケージ」における指標の活用方法
4. 指標の進行管理について

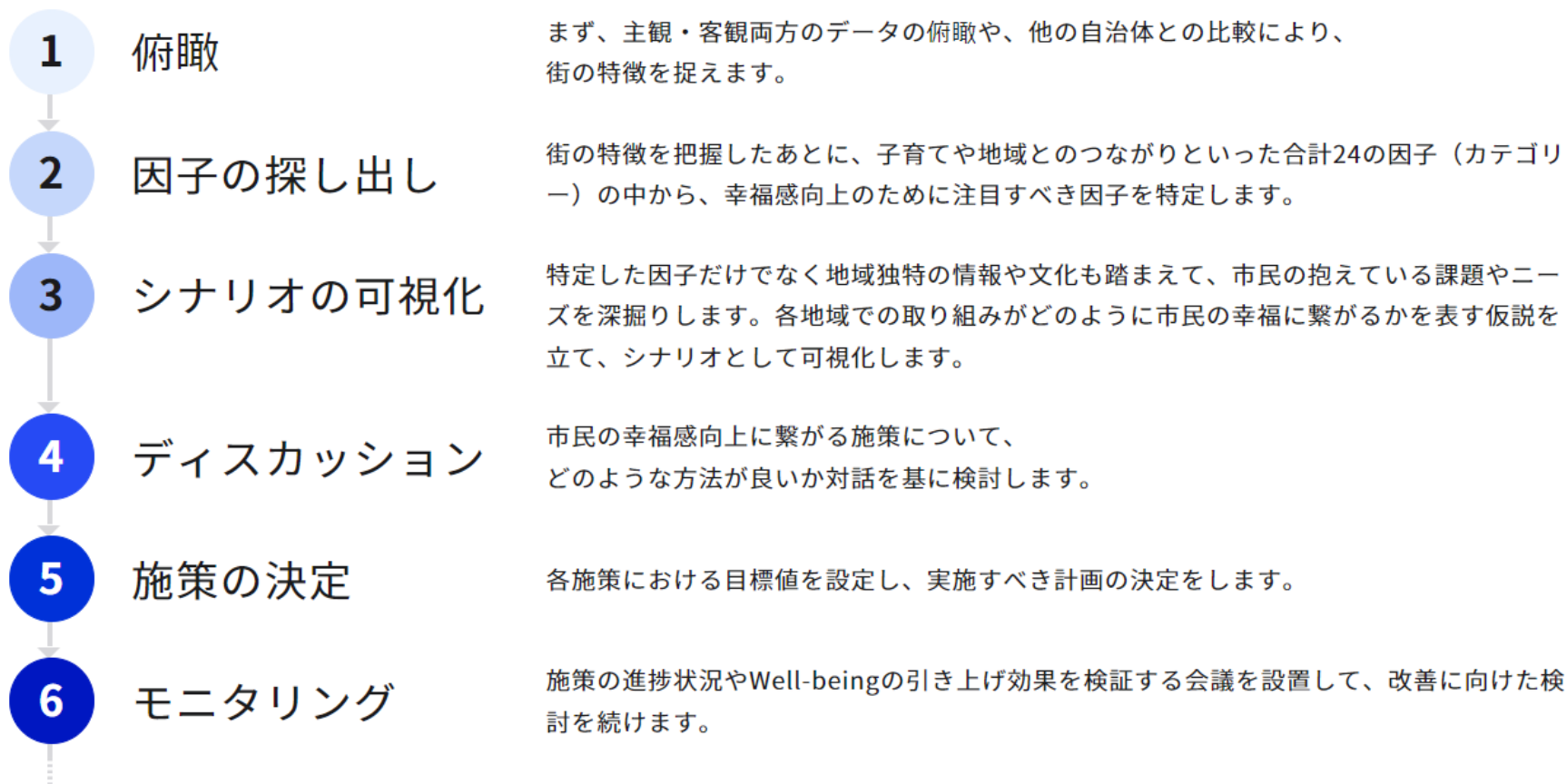
（１）地域幸福度(Well-Being)指標 ～ 令和6年度全国アンケート調査

- デジタル庁・一般社団法人スマートシティ・インスティテュートにより、地域幸福度(Well-Being)指標に関する「令和6年度全国アンケート調査」が実施されています。
- デジタル庁は、「全国アンケート調査は、**毎年1回実施する見込みですが、次回の実施時期や規模、方法は現時点では未定**です。」としています。

項目	調査概要
調査設計	<ul style="list-style-type: none">・ 100以上確保できる自治体の数を極大化するため、母集団構成比による回収は考慮せず、自治体の規模に応じて回答数の目標値を設定した調査・ 政令指定都市で最低1,000、東京23区で400、令和3～5年度補正デジType2/3/S採択自治体及びスーパーシティ・デジタル田園健康特区で400、その他自治体は100を回収目標として設定
調査手法	モニターハメール等による依頼の後、WEB調査画面にて回答していただくインターネット調査
対象地域	全国
対象者条件	18歳～89歳の男女
回収目標数／有効回答数	100,000 ／ 101,498
対象自治体数 (うち回答数100以上)	684団体 （668団体）
設問数	51問（必須50問とオプショナル設問1問；設問一覧は次項を参照ください）
調査期間	2024年5月14日（火）～2024年5月20日（月）

(2) Well-beingを高めるための指標活用プロセス

■ 地域幸福度（Well-Being）指標をもとに、①～⑥のプロセスを繰り返すことでWell-beingを高めていきます。



(3) 新たな計画の進行管理における指標の活用

- 毎年度の事業の検証の参考資料として、幸福度因子とその構成データ（指標）の推移を確認します。
- 「なぜ上昇／低下がみられたのか」という観点から、n-1年度の結果をn+1年度事業の改善の参考情報として活用します。
- 総合計画全体では、「幸福度因子の基準値（令和6年度偏差値）との比較結果」を示し、「なぜ上昇／低下がみられたのか」という観点から、成果の検証と改善策の検討に活用します。

